

日本学術会議 科学者委員会
学術誌問題検討分科会（第7回）議事要旨

1. 日 時： 平成25年3月8日（金） 16:00～18:00

2. 場 所： 日本学術会議 6-C（1）会議室

3. 出席者： 浅島委員長、北里副委員長、植田幹事、田口幹事、小松委員、矢野委員、嶋田委員、須田委員、松岡委員、玉尾委員、永井委員、林委員、北村委員（Skypeによる参加）（欠席：辻村委員、吉田委員、古田委員、長野委員、谷藤委員）
事務局：石原参事官、守屋事務官

4. 配付資料：

資料1	前回議事要旨（案）
資料2	学術出版の今後- 科研費改革（SPARC Japan News Letter）
資料3	オープンアクセスの現状と研究者に対する調査の提案
参考	委員名簿

5. 議 事：

（1）前回議事要旨（案）を承認した。

（2）「国際情報発信強化」についてのアンケート報告：

資料2に基づいて「アンケート結果」の説明がされた。SPARK JAPAN HP に掲載してある。「国際情報発信力強化」に関する科研費は新しい学術発信に関する科研費であるので、学術コミュニティ、学協会が育てて行かなければならない。科研費に関する学協会の反応がわかる。今後、各分野で leading journal を作り、継続的に育成することになる。

小松委員より、資料2の最後のページに基づき、「科研費改訂と人文系の学術誌」についての批評の骨子の説明があった。理系でも農学分野の一部では邦文での出版が重要な分野もある。

（3）今後のあり方と課題について

－ 今回の科研費改革がなければ、学術誌出版助成はじり貧になったと思われる。5年で評価されるので、国際ジャーナルのクオリティーを保つ必要がある。

－ オープンアクセスへの動き

Nature が article に意見を出した。Global Research Council (NIH 主導) が OA について注意を喚起した。NSF, NIH も世界に向けて OA 化へのメッセージを発信した。5月に70数カ国を集めた、国際会議が開かれる。ドイツも DFG 長官 (MPI 理事長) も OA に向けて動き出した。日本では、文科省、JSPS は OA に向けて舵を切った。それに学協会がどう対応して行くかがこれからの問題である。

－ OA 化について、研究者に向けた意識調査を行う事を目指して、アンケートをとることにした。林委員が案を作り、分科会委員に回覧する。1) 研究者が何を考えているのかを知る。2) 研究者が日本の journal の国際化に向けて何をどう持って行きたいのかを考えてもらうきっかけを作る。

アンケートでは、以上の流れがわかることを目指す。

（4）その他

次回日程： 平成25年6月12日（水） 16:00～18:00

以上